

## 韓国の看護師業務環境と倫理教育の必要性

### Nursing practice environment and necessity of ethics education in Korea

鄭 昇姫・今井 信行

Seunghye JUNG and Nobuyuki IMAI

医療環境の変化と看護師の役割の変化に応じて看護師は臨床実務の現場でさまざまな倫理的問題に直面するようになった。これに関連して看護師は患者支持者の役割と様々なジレンマ状況で倫理的葛藤やストレスを経験している。看護師が倫理的葛藤をたくさん経験すればするほど職務満足度が低下し離職意図が高まり、さらに患者に提供する看護の質にも影響を与えることが報告されている。したがって、臨床看護師が看護の現場で専門看護師としてまた対象者の擁護者としての倫理的な葛藤問題を効率的に解決し、適切な倫理的意思決定を介して倫理的看護を提供できるように支援するための倫理教育の必要性を強調する。

#### 1. はじめに

韓国労働者の職務ストレスはOECD加盟国の中で最高水準であり、会社員の87.8%が職務ストレスに精神的無気力、ストレス性消化器疾患などの身体、精神異常を経験する<sup>1)</sup>。職務ストレスは職務に関連して、組織内の相互作用の過程で組織の目標と個人のニーズとの間の不均衡に現れる<sup>2)</sup>。この職務ストレスは、職務に必要な要件が労働者の能力、資源と要求が適合しない場合に現れる有害な身体的、精神的な反応で健康を脅かして病気を引き起こすことがある<sup>3)</sup>。

特に医療従事者は医療の分業化と専門化、医療技術と情報の開発、最先端の医療技術の導入により、大型病院増設や病院間の競争の激化、対象者の健康と医療サービスの高いニーズと期待などに関連して、新しい役割と業務に負担やストレスがさらに加重されている<sup>4)</sup>。韓国は医療機関に従事する保健医療従事者の合計534,857人のうち、看護師が147,997人(27.7%)で最も大きな割合を占めている<sup>5)</sup>。

最近就職難が加重され、大学入試の専攻を選択する

際、就職率に優れた専攻を優先する雰囲気が広がって看護学科を選択する学生が増えてきて、これによる副作用も量産されている。つまり、卒業後新規看護師の職場早期離脱現象が蔓延化されている。不規則な交代時間、余分な仕事、意見収斂窓口の不在、不満足な給与、対人関係の困難などによって専門職に対する喪失感及び仕事に対する低い満足度により、高い離職意図を持たせる結果を招くことになった<sup>6-7)</sup>。ここでは、韓国看護師の業務環境に応じた国の政策と倫理教育の必要性について述べる。

#### 2. 韓国の看護師業務環境

韓国政府は数年間看護大学の入学定員拡大など看護人材を継続拡充してきたが、医療環境の変化などによる継続的な看護需要の増加で看護師不足問題は深刻な状況である。看護師免許取得者は2017年37.5万人で、毎年約1.6万人を新規看護師として排出している<sup>8)</sup>。看護大学の入学定員は2018年1.9万人で、過去10年間で約8千人が増員された<sup>8)</sup>。しかし、医療機関で活動する看護師の人員は2017年18万6千人で看護師全員の49.6%に過ぎない<sup>8)</sup>。これは人口千人当たりの活動看護師の数は3.5人で、経済協力開発機構(OECD)平均の53.8%水準である<sup>8)</sup>。看護師の医療機関活動率が低いのは3交代、夜間勤務など過重な負担を受けるがこれに対する処遇水準は低いため、離職率と退職率を高めることが原因だと考

連絡先：今井信行 nimai@cis.ac.jp

千葉科学大学大学院薬学研究科

Graduate School of Pharmacy, Chiba Institute of Science  
Graduate School

(2018年9月27日受付, 2018年11月28日受理)

えられる。平均勤続年数は5.4年、全体の離職率は12.4%、新規の看護師の1年以内の離職率が33.9%であり、熟練した長期勤続人材が不足している実態である<sup>8)</sup>。また、医療現場内を燃やす（「灰になるまで火で焼かれ」という意味で、看護師間のいじめを指す隠語）、セクハラなどの人権侵害問題も看護師が臨床現場に適応できず去る原因として作用する。

韓国保健福祉部は2018年3月、看護師が働きやすい病院の環境を造成するための「看護師勤務環境と処遇改善対策」を設けたと発表した。今回の対策は合計5つであり、その内容は次のとおりである。

一つ目、看護師処遇改善のための制度的基盤造成、夜間勤務の補償強化と労働環境の改善、過度な3交代制改善のための勤務形態の多様化を支援して、看護師の勤務環境を改善するものである。二つ目、医療機関内の人権侵害問題への対応システムの用意と医療機関の組織文化改善を誘導、新規看護師の教育と管理システムを構築し、パワーハラスメント根絶などの人権侵害を防止するものである。三つ目、看護人材の供給を拡大、遊休人材再就職を活性化、脆弱地域看護師適正配置のための制度的基盤作り、看護大学実習教育の充実のための支援拡大を通じて看護人材の拡充や専門性を強化するものである。四つ目、看護介護統合サービス拡散とサービス質の管理を推進、看護専門の向上のための専門看護師制度を有効化、看護助手の勤務環境を改善し、質の管理を強化するものである。最後に、看護業務推進システムを強化、看護師処遇改善のための法的根拠を整備し、看護職員に関する政策基盤を造成することである<sup>8)</sup>。

韓国政府が看護師の勤務環境と処遇改善に重点を置いて国政課題に含む関連対策を用意したのは今回が初めてである。今回の対策は、看護師現状を分析し、医療現場内の看護師不足問題を解決するためには、看護師勤務環境と処遇改善を通じたキャリア断絶を防ぎ、長期勤続を誘導することであると考えられる。

### 3. 韓国の看護師倫理教育の必要性

看護学は、人道主義、慈善主義、生命尊重を基本理念に発展した学問であり、看護実務能力だけでなく、高度の看護倫理も強調される。最近急変する社会環境、生命科学技術の発達、看護対象者の権利伸長により過去とは異なる多面的で複合的な倫理問題が提起された。このような変化により、看護師は倫理的意思決定が必要とされる状況によく直面するようになり、倫理的ジレンマを経験することが報告されている<sup>9-11)</sup>。韓国の看護師がよく経験する倫理的ジレンマを調査した研究によると、看護師は多様化する医療環境で倫理的ジレンマ状況をよく感じてジレンマ状況も複雑になっていることを推測できる<sup>12-13)</sup>。それにもかかわらず大半の看護師は、個人の価

値観を機関や組織の価値観と政策に合わせて倫理的意思決定をするのが一般的である<sup>14)</sup>。これは倫理原則に基づいて意思決定を下す訓練と準備が不足して、自分がそのような意思決定過程に参加する権限があることさえ混乱しているからである<sup>15)</sup>。看護師は倫理的ジレンマ状況で積極的な対処ではなく自己防衛メカニズムを使用しているが、これは看護師自身の道徳意思決定について知識と経験の不足、倫理的ジレンマ状況を解決しようとする制度の支持と公式的な相談システムの不十分に原因がある<sup>16)</sup>。

生命倫理はすべての生命を扱う方法を倫理的に検討する分野であり、生命医療倫理は生命科学時代に人間が選択すべき新しい倫理という意味で台頭し始めて、すべての医学分野領域で倫理的問題の意思決定を支援し、個人の倫理的価値観に基づいて業務を遂行するのに役立つ<sup>17-18)</sup>。看護師の倫理的価値観と哲学によって決定された意思決定は、対象者の看護行為に直接的な影響を与えるため他の職業群に比べてより高いレベルの道徳的感受性が要求される。臨床現場で生命倫理の確固たる価値観が確立された看護師は望ましい意思決定を助けて看護の専門性を向上させるが、倫理的価値観の対立を経験した場合専門的な判断を難しくして看護業務遂行に影響を与えストレスを誘発する原因になる<sup>19)</sup>。一般的に、倫理教育を受けた経験のある看護師はより高いレベルの倫理的な意思決定をして、倫理綱領を認識している看護大学生がより高いレベルの道徳的判断をしていると報告されている<sup>20)</sup>。

看護大学生も臨床実習現場で経験する倫理的葛藤を解決する体系的な方法を知らず、多くのストレスを経験する。したがって、看護大学生がどのような生命医療倫理意識を持っているのかは、卒業後行う専門看護行為と直結され、賢明で望ましい倫理的判断をすることができる基準になる。したがって、望ましい価値観を形成させて倫理的責任を持つ学生を準備させることは重要である。

### 4. 結論

科学技術の発展と医療技術の進歩に生命維持、人間遺伝子の変化などの問題が台頭し、伝統的な道徳観では新しい知識および技術に関する道徳の問題を解決することが困難になった。また、患者人権の重要性増加と患者と家族の権利主張に対する医療関係者の責任が拡大している医療状況で、生命医療倫理の重要性がさらに台頭している。倫理教育は、急速に変化する医療状況で多様に発生する可能性のある倫理的ジレンマ状況の積極的な取り組みと批判的思考を通じた倫理的な意思決定を助けるのに不可欠である。したがって、医療現場で発生する様々な倫理的問題への感度と倫理的問題を理解し分析する能力と倫理的な意思決定能力を高めるためには、臨床看護

師に継続的な倫理教育を行うべきである。今後看護師の処遇改善及び倫理教育を通じて医療機関内の看護人材不足の問題を解消することにより、最終的には国民により良い医療サービスを提供できることを期待する。

#### 参考文献

- 1) OECD. Society at a Glance 2009: OECD Social Indicators. Paris, OECD Publishing, 122-123, 2009.
- 2) Abbas SG, Farah A, Apkinar-Sposito C, Measuring the immeasurable: An overview of stress and strain measuring instruments. Mediterranean Journal of Social Sciences, 4, 10, 480-489, 2013.
- 3) Sauter, S., MurPHY, L., Colligan, M., Swanson, N., Hurrell, J., Scharf, F., et al.: Stress at work. National Institute for Occupational Safety and Health, 99-101, 1999.
- 4) Heo, KS.: A study on the relationships between job characteristics and organizational commitment of hospital organization. Korean Journal of Human Resource Management, 12, 21-45, 2005.
- 5) Ministry of Health & Welfare. Ministry of Health & Welfare Statistical Year Book 2015. Sejong: Minister of Health and Welfare, 12-13, 2015.
- 6) Lee, YJ., Kim, KB.: Experiences of nurse turnover. Journal of Korean Academy of Nursing, 38, 2, 248-257, 2008.
- 7) Cho, H., Lee, GY.: Self-esteem and career identity of nursing students. Journal of Korea Academy of Public Health Nursing, 20, 2, 163-173, 2006.
- 8) 韓国保健福祉部医療資源政策, 2018
- 9) バクヒョンチュ: 看護師の倫理的ジレンマ, 看護行政学会誌, 15, 1, 128-135, 2009.
- 10) イカンチャ, ユソヨン: 看護師の倫理的ジレンマ, 対処のタイプ, 職務満足度と離職の助けの関係. 臨床看護研究, 17, 1, 11-15, 2011.
- 11) Lützn, K., Blom, T., Ewalds-Kvist, B., & Winch, S.: Moral stress, moral climate, and moral sensitivity among psychiatric professionals. Nursing Ethics, 17, 2, 213-224, 2010.
- 12) Park, HJ., Kim, MY.: Ethical dilemma and coping types in nurses. The Journal of Korean academic society of nursing education, 10, 1, 75-83, 2004.
- 13) Lee, KJ., Yoo, SY.: Relationships between nurses' ethical dilemma, coping types, job satisfaction and turnover intention in Korea. Journal of Korean Clinical Nursing Research, 17, 1, 1-15, 2011.
- 14) Lee, YS.: A study on nurses' ethical values. Journal of Korean Academy of Nursing, 20, 2, 249-270, 1990.
- 15) Park, MW.: The patterns of change in ethical value of nursing students. The Journal of Korean academic society of nursing education, 6, 2, 199-217, 2000.
- 16) Park, HJ.: Ethical Dilemma of Nurses. The Journal of Korean Nursing Administration Academic Society, 15, 1, 128-135, 2009.
- 17) Kim, SH.: Bioethics. Department of Philosophy, Real History. 2008.
- 18) Moon, MY., Jeon, MK., Jaung, AH.: Relationship between Nurses Consciousness of Biomedical ethics, Job satisfaction and nursing performance. Journal of Korean Bioethics Association, 14, 1, 27-47, 2013.
- 19) Ha, JY., Kim, DH., Hwang, SK.: The Perception of Biomedical Ethics in Nurses. Journal of Korean Academy society nursing education, 15, 2, 216-224, 2009.
- 20) キムチョンア, チョンチェイム, チャヨンザ: 看護大学生の道徳判断と看護倫理価値観に関する研究. 京北専門大学校学校論文集, 25, 283-305, 2007.

# Nursing practice environment and necessity of ethics education in Korea

Seunghye JUNG and Nobuyuki IMAI

*Graduate School of Pharmacy, Chiba Institute of Science Graduate School*

Nurses have various ethical problems in the field of clinical practice due to changes in the medical environment and nurses' roles. In this regard, nurses are experiencing ethical conflict and stress in the roles of patient advocates and in various dilemma situations. It has been reported that the more nurses experience the more ethical conflicts, the lower the job satisfaction, the exhaustion increases, the higher the turnover intention, and also the quality of care provided to patients. Therefore, it emphasizes the necessity of ethical education to help clinical nurses to be able to effectively solve the ethical conflict problem as a professional nurse, advocate of the subject, and to provide ethical nursing through proper ethical decision - making in the nursing field.